



コミュニケーション支援

(上) SyncDecor: 離れた家で同期する日用品です。明かりを点けると遠隔地の明かりが点き、ゴミ箱の蓋を開けると遠隔地でも開き、テレビには同じ番組が写ります。離れて暮らす家族、友人、恋人に、バーチャルに同居する感覚を提供し、電話やメールによるコミュニケーションを活性化します。

(下) 居るゴール: 家庭の様子を奏でるオルゴールです。ふたを開くと、オルゴール調の音楽に乗せて家族が生活する音が聞こえてきます。同じ家に住んでいる家族のこと、離れて暮らす家族のこと、今日1日の家の様子などを知りたい気持ちに応えます。



© 高荷隆文



食育と健康

(上) いろどりん: 食卓におけるバーチャルリアリティ。皿の上の食べ物を認識し、食べ物に合わせて皿やテーブルを様々に彩り、また食に関する情報を提示します。

(下) 圧力センサと無線通信を組み込んだ靴により、無拘束な足圧計測システムを実現します。これにより、高齢者の歩行バランス機能の評価を行い、転倒を予防します。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-6-8 お茶大実験住宅
PHONE: 03-5978-5398 (椎尾)
<http://ochahouse.com/>

OCHA HOUSE

OCHANOMIZU UNIV.



🌸 日本初の大学内実験住宅 🌸

Ocha Houseは家を対象としたユビキタスコンピューティングアプリケーションを実装し評価を行うための実験住宅です。大学内に建設されたユビキタスコンピューティング実験住宅は、日本で初めての試みです。



Ubiquitous Computing @ Home

UBIQUITOUS COMPUTING

コンピュータ技術が成熟し、小型化と低価格化が進むにつれて、人々は意識してコンピュータを使うことがなくなり、コンピュータが、どこにでもある透明な存在になるといわれています。これがユビキタスコンピューティングです。将来は、コンピュータが、衣類、家具、食器、日用品、建具などの身の回りのあらゆるものに組み込まれ、コンピュータが人々の生活のあらゆる場面に浸透していくと予想されています。ただし、その実現のためには、家具や衣類にコンピュータが組み込まれると何が嬉しいのかを人々に示すこと、すなわちユビキタスコンピューティングのためのキラーアプリケーションの模索が重要です。Ocha Houseは、家庭におけるユビキタスコンピューティングの可能性を実証するために建設されました。

VIEWPOINT FROM REAL-LIFE

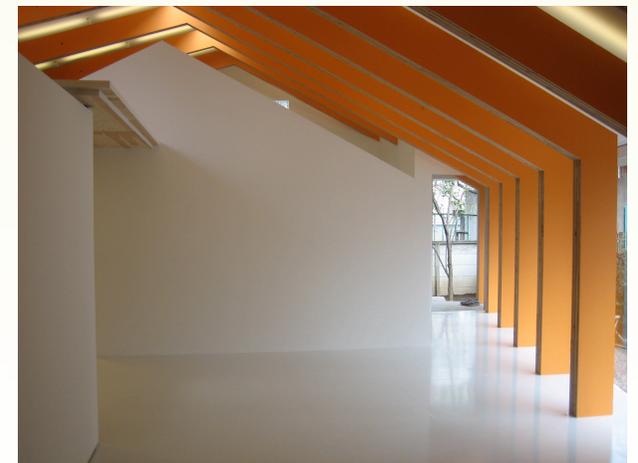
従来のコンピュータアプリケーションは、主に、オフィス、店舗、工場、研究所などの、仕事場を対象としていました。女性の視点からの発想がとりわけて重要視されるわけではなく、どちらかというとも男性優位な領域でした。仕事場、労働の場だけでなく、すべての日常生活を対象とするユビキタスコンピューティングの場合、人々が大半の時間を過ごす家庭におけるアプリケーションが重要になります。そこでは、生活者の視点、とりわけその主役である女性の発想に基づくコンピュータ利用の発掘と提案が鍵になります。ユビキタスコンピューティング

は、情報科学と生活科学の双方の領域をカバーするお茶の水女子大学こそが率先して開拓すべき、女性研究者が活躍できる研究分野であるといえます。

HOUSE OF THE FUTURE

コンピュータと共棲する家は、変化の激しいコンピュータ技術を柔軟に取り込める工夫が必要です。建築の分野では、間仕切りや建具を構造体と分離することで、ライフサイクルに合わせて柔軟に改築可能な家が提案されています。Ocha Houseは、このようなスケルトン&インフィル（構造体と中身）の考えを、コンピュータ、センサー、ネットワークにも広げた設計がなされています。

Ocha Houseは環境に優しい間伐材を利用した木製フレームで支えられています。フレームには配線のための溝が用意されており、天井、壁、床下に設置するコンピュータ機器やセンサー類を柔軟に接続することができます。



© 高荷隆文



© 高荷隆文

おしゃれを支援するコンピュータ

(上) 電腦化粧鏡：メイク箇所への自動ズーム、左右反転機能、横顔確認機能、インターネット上での投票機能などを実現しています。これにより日々のメイクをサポートします。

(下) タグタンス：タンスの中の洋服をフックに掛けることで、服の種類や重さなどによりタグ付けされた写真を簡単に撮影できるタンスです。撮影した写真はネット上から利用できます。

